

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273500155		
法人名	社会福祉法人 はつらつの里		
事業所名	グループホーム はつらつ宮の原		
所在地	千葉県八街市山田台宮の原966番地ノ2		
自己評価作成日	平成29年10月12日	評価結果市町村受理日	平成29年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成29年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、ゆとりある時間と住居の中で、個性を尊重した家庭的な環境の下で、入居者様お一人お一人が楽しく生きがいのある生活を実現できるようお手伝いいたします。温もり・家庭・馴染み・笑顔・怒の心を理念に掲げ全職員で共有し、より良いサービスを実践できるよう努めます。一年を通して地域のお祭りやカラオケ発表会に積極的に参加し、また近隣の商店・スーパーへ日常的に買い物等に出掛け、地域住民と交流を図り、継続的に信頼を深めて参ります。ご家族様と共に参加して頂ける行事や外出する機会を数多く立案し、ご家族様と入居者様、そして当施設とのより深いつながりや信頼関係を保てるように努めてまいります。家庭生活で行っていた家事をや行動を思い出していただくよう、日々の食事作りや掃除等を毎日の生活日課に取り入れ、生き生きとした張りのある生活作りに努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人「はつらつの里」の4施設の一つである。千葉市に位置する本部とは数Kmしか離れていないが、当ホームは八街市にあり、情報の溢れる大都市と田園都市という、特質の違う2つの自治体の長所をホームの運営に巧みに生かしている。入居者不足という課題も、運営推進会議等を活用してクリアし、現在は満室で運営も軌道に乗りつつある。本部を中心に4施設合同のイベントや、隣接する山武市における地域連携レクへの参加などで、入居者は社会性を維持しながらいきいきとした生活を楽しめている。アンケートの回答者は少ないが、日常の外出や車での小旅行などには比較的高い評価が得られている。新鮮な食材を使って作る食事は一番の楽しみとなっている。また、職員会議の議事録は詳細な内容が克明に記録されていて貴重な運営資料として生かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (○ 印を記入ください)

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	実践状況		
			実践状況	実践状況	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念や毎年度の目標をホーム内に掲げ、全職員で実践及び評価を行っている。	「理念がホームを作る！」という印象を強く受けるホームである。創設時の理念が新鮮なまま受け継がれている。入居者が自由に事務室に入出入りできるなど、日ごろのオープンな環境を見ることができる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な外出や地域のカラオケ発表会・お祭り等に出掛け、地域の方々との交流を保っている。また地域住民の方に来所して頂き、交流を図っている。	地域交流も、待つというより出かけていく姿勢の運営が行われている。隣接する山武市などで行われるカラオケ大会が楽しみで、毎日の練習に余念がない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に地域の方々に施設を訪問していただき、認知症の理解を深めていただく機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価、自己評価の結果を基に推進会議で話し合い、サービス向上のための討議の場として生かすことが出来るよう取り組んでいる。	運営推進会議は5月に第1回目を開催している。地域包括支援センター職員や地域住民、家族が参加している。入居者確保が主な議題であったが、現在は満室となっている。年3回開催の予定である。	議事録には議題が記述されているが、審議のプロセスやアウトカムがあまり書かれていない点は改善の余地があると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自己評価の結果、入居状況等について相談等、市担当者と面談している。また町の研修等のおき、施設の運営について話したりしている。	本部との連携を密にすることで、千葉市からの豊富な情報を研修などに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修会等で全職員が理解しており、身体拘束、行動の制止をしないケアに取り組んでいる。徘徊癖のある利用者様については、個別に散歩や買い物に出掛けている。	研修等で身体拘束しないことの意義を繰り返し話し合い、理解を徹底すると同時に実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日朝・夕の申し送りや、職員会議、ミーティング等、職員間で話し合う場を設け、研修会等で周知徹底している。		

自己	外部	項目	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修等で、全職員が理解できるよう勤めている。 制度利用が必要な入居者様には説明し、関係者との話し合う機会を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書及び重要事項説明書を提示し、説明を行い納得を得た上で契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の意見や要望等は職員会議やカンファレンスで話し合いされる。ご意見箱を設置している。また法人で年3回、第三者委員の訪問による苦情相談を実施している。	法人の第三者委員による苦情相談を実施している点は評価できる。管理者を交え、全員毎年1回は個別に相談できるよう支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部会、職員会議やミーティングで意見を述べる機会があるととも個別面談も定期的に行い、意見を反映させている。	職員会議の議事録は詳細な内容が克明に記録されていて貴重な運営資料として活かされている。研修を希望する職員には積極的に受講を支援しており、信頼関係ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に業務評価を定期的に行っている。各自が向上心を持って働けるように環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の運営方針・施設方針を掲げ、職員のキャリアアップのためのバックアップ体制ができています。 研修参加者の研修内容を伝え職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村の各事業所の交流会・研修会等情報交換の場への参加を行いサービスの質の向上に努めている。 また、利用者様の入退所の際や、市内の同業者施設を見学したりして質の向上に勤めている。		

自己	外部	項目	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申請時本人と面談又は自宅や病院に訪問し、本人の不安や要望に耳を傾け信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の面接同様、申請時や訪問時に家族の不安や意向を伺い、良好な家族関係が保てるよう、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談、インテーク時に要望や現状を把握した上でケアマネや関係者との連携をとりながら必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や庭仕事等日常的なことから年中行事の仕方、長年習慣になっていること等その時々々に相談し教えて頂き一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やケースカンファレンスなどの機会を通し、意見交換を積み上げるように努めている。また本人と家族・職員が一緒に過ごせる場作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りやイベントなど昔馴染みの場所や行事に出掛け、なじみの人との関係継続に努めている。 親類や知人の方が訪問され、昔からの関係を保っている。	気兼ねなく訪問できる雰囲気ができている。家族には毎月、「はつらつだより」に写真と本人の様子を一言添えている。年賀状の作成は大事な活動として、親しい方との関係を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほぼ全員の利用者がリビングで過ごし、談笑したりTVを見て怒ったり笑ったり、レクリエーションを行ったり、お茶を入れあったりしながら、くつろいで過ごしている。		

自己	外部	項目	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にはご家族の不安な気持ちを感じ、今後いつでも心配なことがあれば連絡くださいと伝え、退去後も不安なく他のサービスに移行できるよう支援している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なコミュニケーションで思いや希望を把握するよう努めている。 日常の会話やしぐさ、表情等から本人の意向を汲み取れるよう努力し、職員間で検討している。	日常の会話や家族からの聞き取で一人ひとりの思いを把握し、職員間で共有している。 発語の難しい方には声のかけ方を工夫し、仕草や表情から気持ちを感じ取り支援している。ケア日誌にはその人の言葉で記録されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境、サービス利用経験などはほぼ把握できている。 本人の話を聞いたり、ご家族来所時に必要な情報を得、基本情報・ケア対応に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は業務に入る前に記録の確認をしている。朝、夕の申し送りでも把握している。 個々のケアプランに応じて個別的な支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での話し合い、ご家族からは面会に来所された際などに意見や要望、今後の方向性などを話し合い介護計画に反映させている。	日々の生活の気付きや変化を、個別に24時間記録している。ケース会議で話し合い、本人、家族の意向を踏まえ、穏やかな生活が継続できるようケアマネージャーを中心に介護計画の策定に当たっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者様の様子や現状を記録し、職員間で情報を共有、利用者様のケアについて職員同士で話し合い、どうすればよくなっていくか話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出、外泊には柔軟に対応している。お盆の時期の長期帰省等も対応しており、その間もコミュニケーションを密にし、ご家族との協力関係を保っている。		

自己	外部	項目	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今出来る可能な範囲で、民生委員、ボランティア、知人、警察、消防、近隣住民の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及びご家族の意向を伺い確認している。専門医受診等の際は適切な診療を受けられるよう支援している。	年2回の健康診断、毎週のリハビリセンターでの運動療法等、生活機能維持と健康管理が行われている。月2回の主治医受診には職員が付き添い、記録している。訪問歯科・眼科の治療と口腔ケアの指導が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の生活の中で捉えた情報や気づきに関しては月2回の受診の際に主治医へ伝え、相談し、個々の利用者が適切な受診やケアを受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時には、病院関係者やご家族と情報交換を密に安心して治療が出来るよう早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、ターミナルケアは実践していない為、当ホームでの対応が難しいと考えられた場合は、協力医療機関又は老健施設への入所等を薦めている。	入居時看取りは行っていないことを伝えている。利用者の状態の変化に応じて、家族、主治医、を交え話し合いを重ねている。家族の意向を尊重し系列の老健施設や医療機関と連携を取り、最善の選択ができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの再確認や内部研修で職員全員で把握できるよう努めている。応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけるよう努めている。救急救命者講習を受ける等、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を年2回実施している。火災通報連絡網に法人施設の協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を実施している。限られた人員で避難場所までの誘導や車椅子利用者の避難方法など実践的な訓練に取り組んでいる。今期スプリンクラーが設置され、それに伴い全室防火壁紙に張り替えられた。	

自己	外部	項目	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシーの確保については、内部研修、マニュアル等により職員全員が認識しており実践できている。	慣れ合いと親しみの区別について職員は話し合っている。プライバシーに配慮し入浴・排せつ時にはさりげない声掛けと見守りで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が日常で何を感じ、どんなことに興味を持たれているのか、職員が感じとり支援できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々その日の体調や気分等を見極め声かけなどで以降を確認しながら支援しているが、施設工事等が入った場合等、どうしても一人にしておけない場面等ではその限りではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に本人の希望を聞きながら支援している。 日ごろから季節や場にに合わせて身づくろいの援助に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	提携している食品会社から栄養バランスと日々の食事に飽きがないような献立と食材が来て、それを調理している。また、季節の行事などに合わせ、四季を感じる食事会などを行っている。	地産の新鮮な食材が業者から届き、利用者と一緒に調理している。刻みや盛り付けを手伝い、皆で囲む食卓は「食が一番」の方針が実践されている。餅つき大会、流しソーメン、芋煮会、等季節ごとに食を楽しむ工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養バランスや食事形態(刻み食・ミキサー食・粥食)などに配慮した食事作りに努めている。食事量や水分量はチェック表に記録しており、申し送りで情報を継いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別的な方法で食後口腔ケアを行っている。 状態に応じ歯科医院への報告、相談、来診等連携を図っている。また、二ヶ月に一回定期的な口腔ケアを訪問歯科に頼んでいる。		

自己	外部	項目	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけによりトイレ誘導、夜間も声かけにより失敗がないよう、自尊心を傷つけないような声かけを行っている。(なるべくおむつを使用しないよう心掛けている)	一人ひとりの排泄パターンを把握している。その方に合わせた誘導の声掛けや介助の必要部分を見極めて、自立支援を行っている。昼間は全員トイレでの排泄ができ夜間はポータブルで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食事や水分をこまめ取るなど、個々にあった方法で支援している。また毎日継続的にラジオ体操を行い、個々の体調に応じた運動への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の身体能力の低下や認知症の重度化により拒否することがあり、気長に声かけしながら個々の希望にあった入浴の支援をしている。	風情のある岩風呂が特徴で、それを活かした入浴が喜ばれている。利用者の状態に合わせてリフト浴やシャワー浴で支援している。季節に合わせた菖蒲湯、柚子湯、ラベンダー湯等も好評で楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡や休息、就寝時間帯それぞれ個々に合わせ安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量について全職員は理解している。服薬は個々にあった方法で支援している。症状の変化が見られた場合、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、楽しみごとにより充実した時間を感じ、気分転換できるよう支援している。また希望に応じた手作りおやつ等も楽しませている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に地域のイベントや外食等に出掛けたり、花見やカラオケ大会、日帰り旅行に出掛けたり本人の希望を考慮した外出に努めている。希望等があれば朝の散歩に職員とともに出掛けたりといった支援を行っている。	法人で行う納涼祭やイベントに参加したり、ホームの車で初詣や花見、外食に出かけるなど楽しんでいる。地域のカラオケ大会、お祭りに参加して懐かしい人たちと交流ができている。朝の散歩やスーパーへの買い物に職員と連れ立って出かけている。	

自己	外部	項目	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理能力に応じた支援を行っている。お金を所持していることで安心する方は、小額であるが所持しており、トラブルにならないように気配りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合は相手方に失礼にならない時間帯で対応。毎週決まった日にちに電話をかけてもらえる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節の花を飾り、四季を通して季節を感じることが出来る工夫をしている。 ホール内の壁に季節を感じる製作物や楽しかった思い出を飾っている。居間や居室は光を多く取り入れる工夫や壁の色等にも配慮している。	玄関やホールは、利用者の朝一番の拭き掃除で磨かれている。大きく開かれた窓と床暖房のついた明るいリビングでは、利用者が集まりゆったり談笑する姿が見られる。壁には利用者の手によるちぎり絵の制作物が飾られて季節を感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスや玄関前、庭にベンチや椅子を置きダイニングには椅子を設置し、いつでも外気に触れたり個々の思いに配慮するような環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力していただき、なじみの品物を持参していただいたり、ご家族の写真を飾るなどしている。	テレビを見たり横になったりと自由に過ごすことができている。馴染みの家具や、思い出の有る品物を持ち込み、自宅の部屋と同じ環境をつくり、居心地良く暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のわかりやすい表示で、個々の力が発揮できるよう安全な環境づくりに努めている。		